

ユニット名	島根大学能楽部
代表者	宮崎 藍衣
所属人数	15名
達成に資するSDGs目標	目標4「質の高い教育をみんなに」 目標11「住み続けられるまちづくりを」 目標12「つくる責任 つかう責任」 目標16「平和と公正をすべての人に」
活動概要	島根大学能楽部では、700年以上の歴史をもつ古典芸能「能楽」の仕舞および謡を稽古し、その成果を島根県内外の舞台で発表しています。毎週行われる学生および教員のみの稽古に加え、月に1～2回、対面またはオンラインでプロの能楽師による直接指導を受け、技術の習得のみならず、能楽の歴史や系譜についての理解も深めています。 発表・イベントの機会としては、4月に地域の高齢者とプロの能楽師を学内に招き能楽体験イベントを開催しました。 5月には松江喜多会春季大会がサンラポーむらくもで開催され出場しました。 6月には全国宝生流学生能楽連盟大会が石川県の金沢能楽堂で開催され出場しました。 9月には崇寶会が滋賀県の彦根城能舞台で開催され出場の予定です。 10月には松江邦楽連盟の舞台が島根県民会館で、菅田ふれあい祭りが菅田会館で開催され、出場予定です。 12月には松江喜多会秋季大会に併せてプロの能楽師を招き小泉セツに関した一般向けイベントをサンラポーむらくもで開催し、出場予定です。また、島根大学教育学部附属義務教育学校で開催する能楽教室に協力出演する予定です。
主な連携先 (予定を含む)	松江喜多会、松江宝生会、全国宝生流学生能楽連盟、大島会、崇寶会、宝珠会、小泉八雲記念館、松江邦楽連盟、菅田謡会、松江市立菅田会館
成果物の公表予定、 社会への波及効果	伝統文化・伝統芸能の教育は、2008年に告示された学習指導要領の改訂により明文化され、国を挙げて取り組むべき重要課題として位置づけられています。本学の能楽部も、日々の活動を通じて伝統芸能に触れることで郷土への愛着を育み、世代を超えた学びの機会や多様な教育の選択肢を若い世代に提供する役割を果たしています。また能楽部部員が学ぶのみならず、教育学部附属学校で中学生対象の能楽教室に協力出演することも決まっており、大学生自身がさらに若い世代へと伝統文化を継承する役割をも担っています(目標4)。 また、地域での能楽発表は、地域文化の継承と活性化に貢献するとともに、能楽が歴史上の偉人たちにも愛された文化芸術であることから、まちの魅力づくりや観光資源としての価値を持ちます(目標11)。特に、今年10月より放映されるNHK連続テレビ小説『ばけぼけ』は、小泉八雲の妻セツをモデルとしたドラマであるということから、現在セツに関心が集まっています。セツが晩年に愛し生きがいにしていた趣味が能楽であったことにちなみ、松江の能楽愛好者団体松江喜多会が、小泉八雲記念館との共催で能楽イベントの開催を12月に予定していますが、本イベントの企画運営および実施にあたり、島根大学能楽部は中心的役割を果たす予定です。 さらに、能楽は衣装や道具、舞台装置を何世代にもわたって丁寧に使い続ける文化を持ち、サステナビリティの精神が根付いています(目標12)。私たちが9月に出演予定の彦根城能舞台も、200年以上前に建築された江戸時代の建造物であり、現在も現役で使用されています。このような歴史的資産と日常的に関わることで、無駄を省き、必要なものを丁寧に扱う意識を自然と身につけることができます。 また、能楽は仏教的な平和思想と深く結びついており、たとえ「平家物語」など暴力的な題材を扱う演目でも、主人公である幽霊の語りを通じて暴力の虚しさや功德の大切さを伝える構成が多く、平和教育の観点からも意義のある芸術です(目標16)。 加えて、ユネスコ無形文化遺産である能楽は「日本独自の文化」として国際交流の場でも高い紹介価値を持ちます。学生時代に能楽に打ち込んだ経験は、将来的な国際的活躍の基盤となると考えられます。また、お稽古に必要なものは足袋と扇のみであるため、留学生にとっても始めやすく、帰国後も継続しやすいという利点があります。過去には日本文学を学ぶ留学生が部員として活動していた実績もあります。 これらの点から、能楽部の活動そのものが島根大学の国際交流機能の強化にも寄与しているといえます。